

# 令和8年1月 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランス

## 宇都宮市のARIサーベイランスについて

本市では、市内12か所の定点医療機関からARIと診断された患者の数を毎週、御報告いただいている。これによって、宇都宮市におけるARIの流行状況を把握することができます。

また、患者数の報告を行う定点医療機関の中で、病原体分離のために検体採取を行う医療機関（病原体定点）が、市内に2か所定められており、採取した検体は宇都宮市衛生環境試験所にて、以下の呼吸器ウイルスの遺伝子検査を行っています。

検査対象病原体：インフルエンザウイルスA/B、新型コロナウイルス、  
RSウイルスA/B、ヒトパラインフルエンザウイルス1～4、  
ヒトメタニューモウイルス、  
ライノウイルス/エンテロウイルス、  
アデノウイルス

## 患者発生状況

### 【定点当たり報告数（図1）】

- ・宇都宮市における12ヶ月期の最終週（第52週）の定点あたり報告数は83.00（報告数996例）で、第51週の定点あたり報告数78.58（報告数943例）から増加しました。
- ・栃木県（宇都宮市を含む）における第52週の定点当たり報告数は92.45（前週94.83）で、全国平均は定点あたり73.43（前週77.34）となっており、第51週と比べて栃木県、全国いずれも減少となっています。

### 【患者の年齢構成（図2）】

- ・12ヶ月期の最終週（第52週）の患者の年齢階級別割合で最も多かったのは1～4歳の31.8%，次いで5～9歳の20.9%，10～14歳の11.0%，0歳の3.8%であり、例月どおり15歳未満の子どもが患者全体の7割を占めていました。

図 1 : 定点当たり報告数の推移

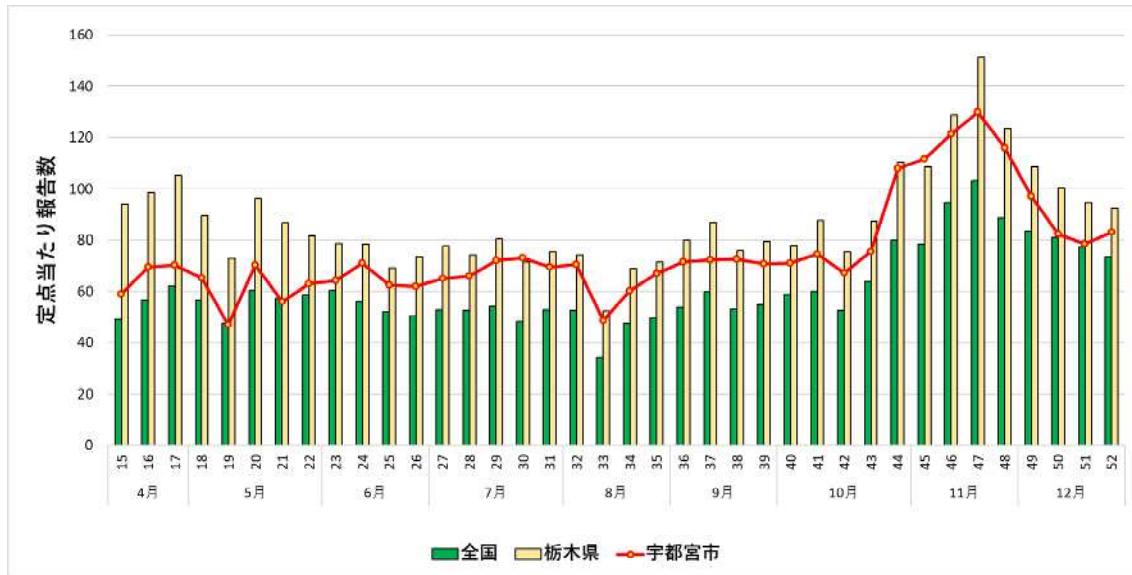
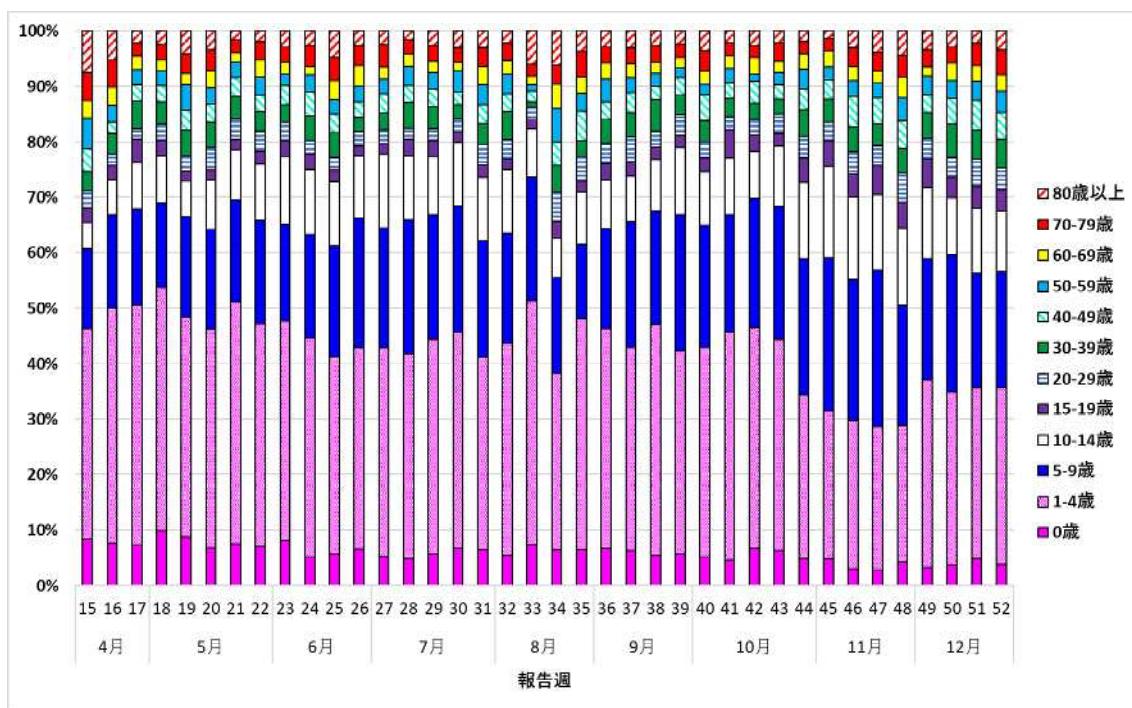


図 2 : 患者の年齢階級別割合の推移



## 病原体検出状況

### 【病原体検出状況】

12月期（第49～52週）に採取された40検体のうち、35検体から何らかの病原体が検出され、陽性率は87.5%でした。12月期全体で最も多く検出された病原体はインフルエンザウイルスAで、23件でした（A/H3亜型18件、亜型不明5件）。次いで、ヒトパラインフルエンザウイルスおよびエンテロウイルス（ライノウイルスを含む）が8件、新型コロナウイルスが7件、アデノウイルスが6件でした（表1）。

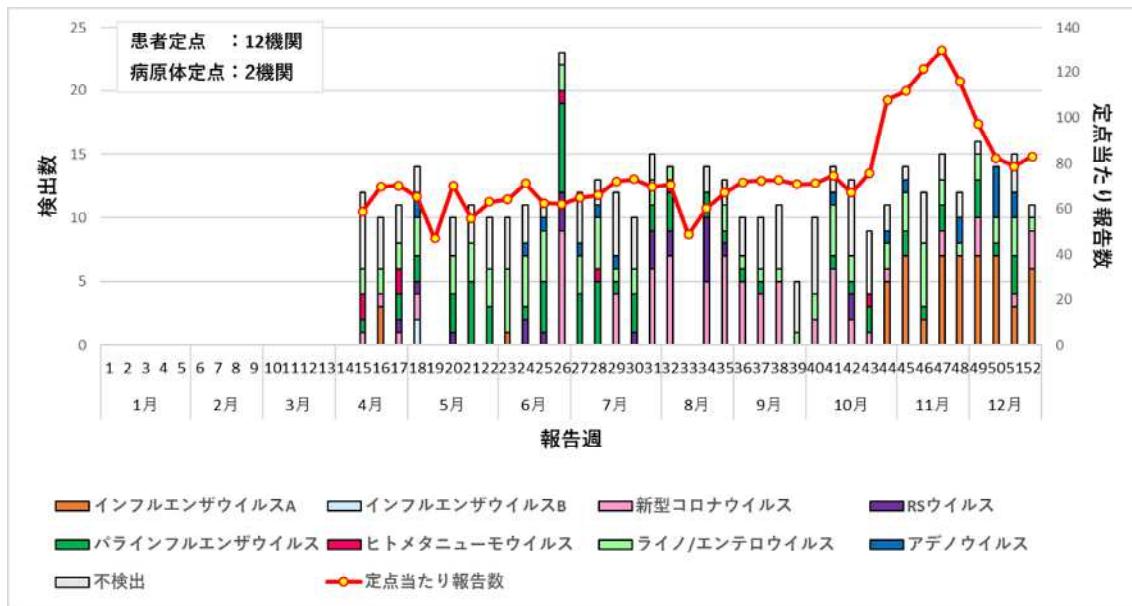
また、12月期の最終週である第52週では、インフルエンザウイルスAが6件と最も多く検出されており、11月期から引き続き、インフルエンザウイルスAの検出が多い状況が続いています（図3）。

11月期と比較すると、インフルエンザウイルスA/H3亜型やヒトパラインフルエンザウイルス、エンテロウイルス（ライノウイルスを含む）が引き続き多く検出されている一方で、新型コロナウイルスやアデノウイルスはやや増加しました。

表1：病原体検出状況(月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
	15-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	
検体数	31	40	40	50	30	35	49	40	40	355
不検出数	13	12	9	17	4	16	21	9	5	106
陽性率	58.1%	70.0%	77.5%	66.0%	86.7%	54.3%	57.1%	77.5%	87.5%	70.1%
インフルエンザウイルスA	3	0	1	0	0	0	5	23	23	55
A/H1pdm09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A/H3	3	0	0	0	0	0	5	20	18	46
A亜型不明	0	0	1	0	0	0	0	3	5	9
インフルエンザウイルスB	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
B/ピクトリア系統	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
新型コロナウイルス	3	2	9	10	19	14	12	2	7	78
RSウイルス	1	2	6	4	8	0	2	0	0	23
A型	1	1	5	1	2	0	0	0	0	10
B型	0	1	1	3	6	0	2	0	0	13
ヒトパラインフルエンザウイルス	3	13	14	16	6	2	4	7	8	73
1型	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
2型	0	0	1	4	1	1	0	3	3	13
3型	2	12	8	3	1	0	3	2	2	33
4型	0	1	5	9	3	0	1	2	3	24
ヒトメタニューモウイルス	4	0	1	1	1	0	1	0	0	8
ライノ/エンテロウイルス	6	12	15	12	3	4	10	11	8	81
アデノウイルス	0	2	2	3	0	0	2	3	6	18
検出数合計（同一検体からの複数検出含む）	27	50	69	66	51	22	47	76	83	436

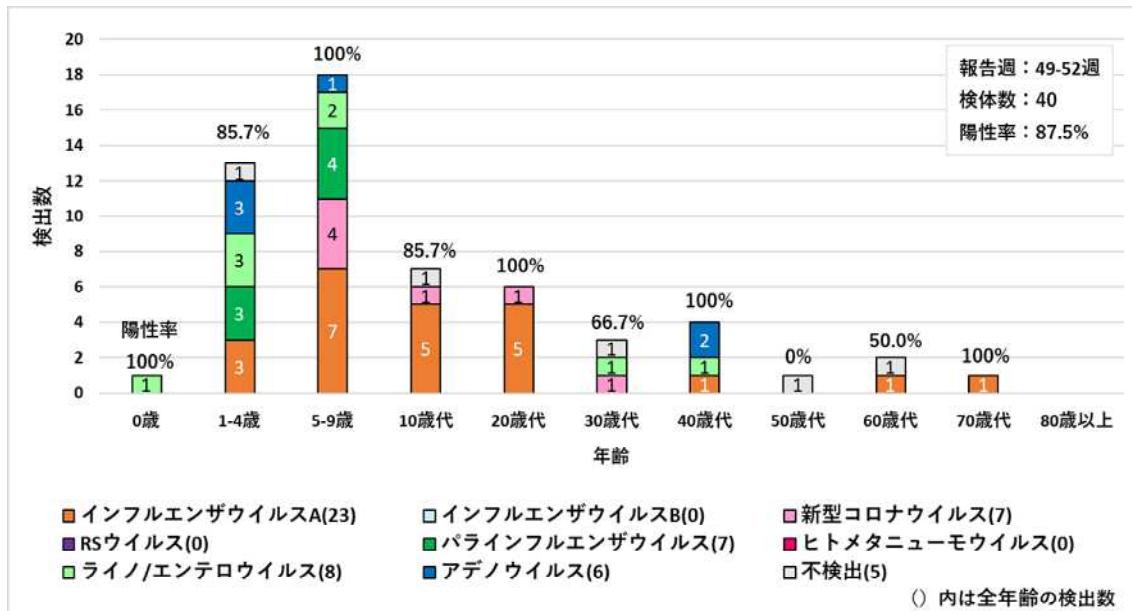
図3：病原体検出状況(週別)



#### 【年齢別病原体検出状況】

12月期（第49～52週）に採取された40検体の年齢別内訳を見ると、5～9歳が最も多く9検体でした。次いで、1～4歳および10歳代がそれぞれ7検体でした。11月期は、10歳以下の年齢層を中心にインフルエンザウイルスA（特にA/H3亜型）が流行していましたが、12月期は20歳代以上を含む、より幅広い年齢層でインフルエンザウイルスAの流行がみられました（図4）。

図4：年齢別ARI病原体検出状況（12月期）



\* 1つの検体から複数の病原体が検出される場合もあります